

新・東中とんぼ通信

発行 横浜市立若葉台東中学校 編集責任 鈴木 徹

イラスト こみね さおり



第 1 5 号

東中「海の教室」下見報告

6月11日（日曜日）に、「海の教室」を実施する予定場所である「三浦ふれあいの村」の説明会に参加してきました。併せて、周辺の様子も見てきましたので、皆さんに報告しておきます。若葉台東中は、「三浦ふれあいの村」内の「やまびこ棟」という宿泊棟を利用します。学習活動は周辺に広がる自然の中で展開することとなります。晴天を望みたいところですが、当日の天気はどうか分かりません。雨天時の学習活動についても、しっかりと事前計画しておく必要があります。このあたりはつい忘れがちですので、気をつけて学習計画を立てましょう。それでは、周辺部について、少し説明をしておきます。「ふれあいの村」のすぐ前は砂浜が広がっています。海辺のスポーツ、砂の彫刻や太陽熱利用の実験などはこの辺りで行うことになりそうです。そして、「ふれあいの村」から見て右側300m程の所からは、磯が連なっています。ここでは主に磯の生物観察が行えそうです。磯伝いに歩いていくと、漁港が見えてきます。この漁港は「栗谷浜港」という漁港です。このように、「ふれあいの村」近辺は、割合狭い範囲に変化に富んだ海浜環境が広がっています。



思わぬプレゼント

畑の整備を行っている際に、「紫蘇」が芽を出しているのを見つけました。こぼれ種から芽生えたのかもしれませんが。早速「わかばクラス」の畑へ植え替えます。「紫蘇」はジュースや梅干しの色づけに利用できたりなど便利です。苗や種子を購入すれば、費用もかかります。結果的に良いものを手に入れることになりました。きよろきよと観察していたご褒美であると勝手に解釈し、自然からのプレゼントを頂きました。



海浜植物

ふれあいの村近辺の植物です。内陸に生えているものとは少しイメージが異なりますね。磯の生物観察は興味深いですが、植物に観察の視点を向けてみるのはいかがでしょうか？写真の3種は、キク科・アブラナ科・バラ科です。



関東近海の海中は、地上より約1ヶ月半遅れで季節が変遷します。地上は梅雨を過ぎ、まもなく夏を迎えますが、海中はやっと春を終えた辺りでしょうか。皆さんが訪れる頃は、海中は夏真っ盛りです。生物の種類も多く、表情豊かな時期です。地上では、夏の日差しを残し、活発に海浜環境を満喫できることでしょうか。ぜひ、興味深い学習計画を立ててください。

